



▼甲佐での暮らしやまちづくりについて話す（一社）パレットのメンバーら



「Kajunido」の管理人を務める岩井凛花さん、イタリアンレストラン「トラットリアサンヴィート」料理長の内藤自然さんをゲストに迎えて中継。3人がまちづくりへの想いや甲佐での暮らしについて話しました。

参加者からは日常生活の心配事などの質問が出され、3人は自身の経験談を話しながら交流を楽しみました。

オンラインで移住者と交流

古民家交流拠点施設から中継で移住相談会を開催

10月24日（土）古民家交流拠点施設（旧西村民俗資料館）で熊本県オンライン移住相談会「リノベーション古民家からまちづくりカフェトーク」が開催され、オンラインで参加した約20人が、移住者の声に耳を傾けました。

首都圏などで行われていた県主催の移住相談会を今年は新型コロナウイルスの影響によりオンラインでの開催に変更実施。第5回となった今回は「まちづくり」をテーマに、本町のまちづくりに携わる（一社）パレットの大滝祐輔代表理事と同施設の「宿屋

仮装した子どもたちにお菓子を

COMMON IDOE でハロウィンイベントを開催

10月31日（土）井戸江峡交流拠点施設（COMMON IDOE）でハロウィンイベントが開催され、仮装した子どもたちにお菓子がプレゼントされました。

同施設を管理する一般社団法人パレットが主催。ホットドックやピザなどの軽食が提供され、家族連れなどが秋のひとときを満喫しました。

家族で訪れた長岡里沙さん（龍野小3年・浅井区）は「ソフトクリームが美味しかった。また来たいです」と笑顔で話しました。



▲芝生エリアを元気に駆けまわる仮装した子どもたち



◀マスク着用で保護者と技巧走を行う龍野小児童たち

コロナ禍で変わる運動会

令和2年度龍野小学校運動会

10月31日（土）町内各小学校で運動会が行われ、児童らが徒競走などに汗を流しました。

例年5月に行われる運動会は新型コロナウイルスの影響で秋に延期。プログラムを縮小し、午前中のみで開催となりました。

龍野小学校（大江律子校長）

では、受付での検温や手指消毒、参観エリアを限定するなどの感染対策を実施。児童らもマスクを着用しながら競技に臨むなど、例年とは様変わりしました。

競技に先立ち、蔵田勇治教育長は「こんな時だからこそ、みんなのがんばりがご家族や地域を元気にします。がんばってください」と激励しました。

いざというときに備えて

緑町自主防災会がコミュニティ助成事業を活用

11月22日（日）緑町自主防災会（中村幸男区長）が宝くじの助成金で整備した非常用発電機やポータブル電源、ソーラーパネルなどの防災用備品の講習会を実施しました。地域住民が参加し、いざという時に備えて使用手順などを確認しました。

コミュニティ助成事業は、地域住民が自主的に結成した組織の防災活動を支援する事が目的に（一財）自治総合センターが実施。宝くじの社会貢献広報事業として、宝くじ受託事業収入を財源に実施しています。



▲整備した非常用発電機の使用訓練を行う参加者



▲オンラインで現役パイロットらの話を聞き入る生徒達

夢の実現について考える

甲佐中生徒が現役パイロットらとオンラインで交流

11月13日（金）甲佐中学校でオンラインによる職業学習が行われ、同校（永瀬善久校長）の2年生が日本トランスオーシャン航空株式会社の佐々木敏文機長の話に耳を傾けました。

例年実施している職場体験学習が新型コロナウイルスの影響で中止となる中、生徒たちのため永瀬校長らが企画し、同社の旅客機パイロットや客室乗務員、整備士の協力でリモート講話が実現しました。

生徒達は、現役パイロットらの話を聞きながら、中学生生活の振り返りとなる今、何をすべきか考えました。

11月13日（金）古民家ホテル「NIPPONIA 甲佐 疏水の郷」（岩下）で地域住民へのお披露目を兼ねた開業記念イベントが開催されました。

同イベントは、古民家再生による地域活性化を目指す株式会社 Drawing（米原賢一代表取締役）が主催。木村敬副知事や奥名克美町長など関係者と地域住民ら約50人が出席し、本町の新たな観光拠点の完成を祝いました。

同施設は、町の若手有志らでつくる一般社団法人パレット（大滝祐輔代表理事）が、全国で古民家再生事業を手掛ける株式会社 NOTE（藤原岳史代表取締役）と共同で整備。

米原代表取締役は「甲佐町の素晴らしさを地域の皆さんと一緒に伝えていきたいです。来た人がまた訪れたい、またあの人に会いに行きたいと言ってもらえるような宿泊施設になっていければ」とあいさつ。

奥名町長は「町としても地域住民との連携体制を構築し、今後も地方創生による地域の活性化を進めていきたい」と述べました。

人とつながる古民家ホテルが開業

「NIPPONIA 甲佐 疏水の郷」オープニングレセプション



▲開業を祈念して鏡開きを行う奥名町長（最左）、木村副知事（左から2人目）、米原代表取締役（左から3人目）ら